

主要産地における平成28年産水稲の収穫量及び作柄概況等について 第2報（9月30日現在）

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部（平成28年10月4日）

全 国 道 府 県	収穫量（主食用）					作況		品質概況等		参考		
	予想収穫量 (28年9月15日 現在)①	前年産 (27年9月15日 現在)②	前年産 との比較 (①-②)	生産数量目標 との比較 (①-③)	自主的取組参 考値との比較 (①-④)	作況指数 (28年9月15日 現在)	前年産 (27年9月15日 現在) との比較	28年産水稲 うるち玄米 1等米比率 (28年8月末現在)	27年産水稲 うるち玄米 1等米比率 (27年8月末現在)	生産数量目標		平成28年産 自主的取組 参考値 ④
										平成28年産 ③	前年産 との比較	
全 国	7,515,000	7,467,000	▲ 48,000	85,000	165,000	103	3	74.9	72.9	7,430,000	▲ 80,000	7,350,000
北 海 道	551,400	556,600	▲ 5,200	9,900	15,731	103	0			541,500	▲ 5,830	535,669
青 森	223,000	229,400	▲ 6,400	▲ 16,877	▲ 14,294	103	▲ 2			239,877	▲ 2,583	237,294
岩 手	254,300	266,500	▲ 12,200	▲ 14,021	▲ 11,132	101	▲ 3			268,321	▲ 2,889	265,432
宮 城	347,300	347,200	100	2,394	6,107	103	0	77.9	100.0	344,906	▲ 3,714	341,193
秋 田	408,200	416,500	▲ 8,300	▲ 4,892	▲ 444	103	1			413,092	▲ 4,448	408,644
山 形	345,900	354,300	▲ 8,400	5,070	8,740	102	▲ 1	-	100.0	340,830	▲ 3,670	337,160
福 島	332,400	343,200	▲ 10,800	▲ 3,533	84	102	▲ 1	91.5	79.2	335,933	▲ 3,617	332,316
茨 城	354,100	351,600	2,500	20,324	23,918	100	2	96.0	87.1	333,776	▲ 3,594	330,182
栃 木	296,400	289,400	7,000	892	4,074	103	4	100.0	100.0	295,508	▲ 3,182	292,326
埼 玉	154,100	156,600	▲ 2,500	4,441	6,053	101	0	87.6	54.4	149,659	▲ 1,611	148,047
千 葉	297,500	297,500	0	53,636	56,261	103	2	93.0	88.7	243,864	▲ 2,626	241,239
新 潟	590,700	550,900	39,800	74,963	80,516	108	9	88.9	88.0	515,737	▲ 5,553	510,184
富 山	191,600	191,900	▲ 300	7,928	9,905	106	3	91.8	84.2	183,672	▲ 1,978	181,695
石 川	123,900	123,200	700	1,587	2,904	104	3	94.8	85.6	122,313	▲ 1,317	120,996
福 井	126,300	125,500	800	2,176	3,513	104	3	94.2	79.3	124,124	▲ 1,336	122,787
長 野	197,200	197,400	▲ 200	5,267	7,333	100	1	100.0	100.0	191,933	▲ 2,067	189,867
滋 賀	161,300	158,800	2,500	2,559	4,268	104	4	89.5	83.1	158,741	▲ 1,709	157,032
兵 庫	176,600	177,400	▲ 800	▲ 1,918	4	100	1	70.6	73.0	178,518	▲ 1,922	176,596
岡 山	158,600	152,100	6,500	1,739	3,428	103	5	64.7	53.9	156,861	▲ 1,689	155,172
広 島	122,900	122,400	500	▲ 5,685	▲ 4,301	101	4	81.9	53.7	128,585	▲ 1,385	127,201
山 口	102,000	100,200	1,800	▲ 5,601	▲ 4,443	102	5	90.8	81.4	107,601	▲ 1,159	106,443
愛 媛	73,300	72,000	1,300	167	955	104	5	68.4	35.9	73,133	▲ 787	72,345
高 知	<u>53,700</u>	<u>52,700</u>	1,000	4,163	4,697	<u>101</u>	5	<u>21.2</u>	<u>18.2</u>	49,537	▲ 533	49,003
福 岡	178,800	173,000	5,800	▲ 1,726	218	102	5	24.1	21.2	180,526	▲ 1,944	178,582
熊 本	170,600	172,200	▲ 1,600	▲ 16,693	▲ 14,677	102	5	<u>25.9</u>	<u>52.9</u>	187,293	▲ 2,017	185,277
宮 崎	<u>77,300</u>	<u>73,700</u>	3,600	▲ 15,303	▲ 14,306	100	8	<u>59.2</u>	<u>65.9</u>	92,603	▲ 997	91,606
鹿 児 島	<u>99,200</u>	<u>95,100</u>	4,100	▲ 10,687	▲ 9,504	<u>102</u>	10	<u>29.7</u>	<u>45.2</u>	109,887	▲ 1,183	108,704

注：更新箇所について、前報より増加した箇所は二重下線で、減少した箇所は下線で表した。

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
道府県	自治体等公表資料（公表資料の抜粋）
北海道	<p>・9月15日現在、全もみ数は、6月上旬から中旬にかけて日照時間が平年を下回ったものの、7月には天候が回復したことから「平年並」となった。登熟は、8月上旬から9月中旬にかけて台風の通過はあったものの、おおむね高温に経過したことから「やや良」と見込まれる。（北海道農政事務所 9月30日付）</p> <p>（全道）登熟は平年並（9月1日現在 遅3日）。収穫作業は平年並に始まった（遅1日）。（北海道農政部 9月15日現在） （空知）登熟は順調に進んでおり（遅2日）、一部の地域で収穫が始まった。（空知総合振興局 9月15日現在） （石狩）登熟は進んでいるが、ほ場間や地域間の差が大きい（遅3日）。（石狩総合振興局 9月15日現在） （後志）黄化割合が90%となった。生育は平年より1日遅くなっている。（後志総合振興局 9月15日現在） （胆振）生育はやや遅い（遅3日）。収穫はやや遅れている（遅3日）。（胆振総合振興局 9月15日現在）</p> <p>（日高）生育は平年並（遅1日）、収穫作業は平年よりやや遅れて始まった。（日高総合振興局 9月15日現在） （渡島）登熟は概ね平年並に推移。（渡島総合振興局 9月15日現在） （檜山）登熟は平年よりやや遅れている（遅3日）。（檜山振興局 9月15日現在） （上川）生育は平年よりやや遅れて推移している（遅4日）。（上川総合振興局 9月15日現在） （留萌）登熟は平年並に進んでいる（早1日）。（留萌振興局 9月15日現在） （オホーツク）生育は遅れている（遅7日）。（オホーツク総合振興局 9月15日現在）</p>
青森	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が「平年並」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、606kgが見込まれる。（東北農政局 9月30日付）</p> <p>・9月20日現在の稲刈進捗は、県全体で4%となり、平年に比べて3ポイント高かった。（青森県「攻めの農林水産業」推進本部 9月21日付）</p> <p>・水稲作況（登熟状況） （黒石）9月9日現在の「つがるロマン」の登熟歩合は88.1%で、平年を6.9ポイント上回った。また、「青天の霹靂」の登熟歩合は94.7%で、前年を4.3ポイント上回った。 （十和田）9月9日現在の「まっしぐら」の登熟歩合は89.1%で、平年を14.4ポイント上回った。（青森県産業技術センター農林総合研究所 9月13日付）</p>
岩手	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が平年に比べ「やや少ない」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、540kgが見込まれる。（東北農政局 9月30日付）</p> <p>・県内全域で刈取り作業が進んでいる。刈遅れによる品質低下を避けるため、早めの収穫作業を指導。（岩手県 9月29日付）</p>
宮城	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が平年に比べ「やや多い」となり、出穂期の気温・日照時間が平年を上回って経過したものの、全もみ数がやや多かったことにより、登熟が「平年並」と見込まれることから、546kgが見込まれる。（東北農政局 9月30日付）</p> <p>・9月26日現在における県内の水稲の刈取面積は8,582haであり、県全体の進行率は13.3%となっている。県全体の刈取始期は9月23日であり、平年に比べて2日遅い。降雨の影響により刈取作業は遅れている。（宮城県 9月27日付）</p>
秋田	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が「平年並」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「やや良」と見込まれることから、589kgが見込まれる。（東北農政局 9月30日付）</p> <p>（鹿角）9月25日現在の水稲の刈り取り作業の進捗状況は、管内のほ場全体の3.8%（平年3.0%）となっている。（9月30日付） （山本）9月25日現在の刈り取り作業の進捗状況は26.9%となっており、平年（12.8%）より早く作業が進んでいる。（9月30日付） （秋田）管内の刈取作業の盛期（進捗率50%）は、平年より2日早い9月27日となった。（9月30日付） 9月15日現在の定点調査ほのmあたりの着粒数は31.4千粒（平年比93%）と平年より少なくなっている。ただし、ほ場により穂数、一穂着粒数が異なり、mあたりの着粒数は25千～37千粒とほ場間差が大きくなっている。また、管内の刈取作業の始期は、平年より3日早い9月18日となった。（9月23日付） （仙北）9月25日現在の刈り取り作業の進捗状況は39.0%（平年：23.6%）で、概ね順調に進んでいます。（9月30日付） （北）水稲定点調査（3品種・移植8か所平均）によると、成熟期調査で、穂長は80.8cmで平年並（平年比97%）、穂長は18.0cmで平年並（平年比98%）、mあたりの穂数は457本と平年よりやや少なく（平年比95%）なった。登熟が早いほ場では稲の刈り取り作業が始まっている。（9月16日付） （雄勝）収穫作業の始期は9月24日で平年並となっている。（9月30日付） （平鹿）9月22日頃から稲刈りが本格的に始まった。（9月26日付） （秋田県農林政策課）</p> <p>・9月20日から向こう1か月で、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想。（農林水産省 9月20日公表）</p>
山形	<p>・9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が平年に比べ「やや多い」となり、出穂期の気温・日照時間が平年を上回って経過したものの、全もみ数がやや多かったことにより、登熟が「平年並」と見込まれることから、609kgが見込まれる。（東北農政局 9月30日付）</p> <p>・「つや姫」の登熟は平年より進み、青刈歩合、籾水分も低下し、前年よりかなり早く刈取適期に入った。1種の中でも早く稔った粒では薄茶米が見受けられる。また、今年は、出穂後、気温が高かったことから、胴割粒が発生しやすい状況となっている。早めの刈取りを心がけるよう指導。（9月23日付）</p> <p>・9月14日現在、登熟歩合は、「はえぬき」で93.4%（平年差+5.3%、前年差+9.3%）、「つや姫」で90.0%（平年差+4.1%、前年差+10.8%）と平年、前年より登熟が進んでいる。「はえぬき」は、既に刈取適期に入った。（9月15日付） （オールやまがた米づくり日本一運動本部）</p> <p>（鶴岡田川）9月24日刈取、9月26日検査の「つや姫」には、光沢なく、うす茶米の発生が見られるものがある。（庄内総合支庁農業技術普及課 9月27日付） 作柄診断圃（鶴岡市上清水）では、穂数、1穂粒数、m粒数とも指標より多くなっているが、平年、前年より登熟はかなり早く進んでおり、青刈歩合も低下している。（庄内総合支庁農業技術普及課 9月16日付）</p> <p>（西村山）「はえぬき」はすでに青刈が無く、薄茶米や光沢不足など、刈遅れのような外観が見え始めている。 「つや姫」は青刈がほとんど無い。「はえぬき」よりも刈遅れによる品質低下（胴割）が出やすい品種の為、優先して刈取るよう指導。（村山総合支庁西村山農業技術普及課 9月26日付）</p> <p>（東南村山）9月14日の作柄診断圃の登熟調査では、登熟は平年よりも進んでいる。「はえぬき」（山形市：8月6日出穂）の登熟歩合は92.7%（平年+1.9%）、つや姫（山形市：8月9日出穂）の登熟歩合は94.7%（平年+4.4%）。出穂後は高温で経過したため、胴割粒が発生しやすい状況。適期内の出来るだけ早めの刈取りを指導。（村山総合支庁農業技術普及課 9月16日付）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
福島	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稲の10a当たり予想収量は、全もみ数が「<u>平年並</u>」となり、出穂期以降、概ね気温・日照時間が平年を上回って経過し、登熟が「<u>やや良</u>」と見込まれることから、553kgが見込まれる。 (東北農政局 9月30日付) 農業総合センターの作柄解析試験では、各品種とも概ね平年並の出穂期となった。出穂後の登熟が順調であることから、成熟期も平年並になる見込み。 (福島県 9月9日付)
茨城	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数がやや少なく、1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>平年並</u>」となった。 登熟は、8月中下旬の日照不足や降雨の影響によりやや抑制されたものの「<u>平年並</u>」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は527kgで、前年産に比べ22kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で523kg(前年産比5kg減少)、鹿行で530kg(同5kg増加)、南部で526kg(同前年産並み)、西部で529kg(同78kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された茨城県の作況指数は100が見込まれ、作柄表示地帯別では、鹿行で102、北部で100、南部及び西部で99が見込まれる。 (関東農政局 9月30日付) 9月20日から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とセジロウカカの発生が「<u>多い</u>」と予想。(農林水産省 9月20日公表) 関東甲信地方では、10月4日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (気象庁 9月29日発表)
栃木	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数及び1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 登熟は、出穂期以降、概ね天候に恵まれ順調に推移したものの、全もみ数がやや多いことによる相反作用により「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は553kgで、前年産に比べ22kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、北部で577kg(前年産比18kg増加)、中部で549kg(同23kg増加)、南部で515kg(同27kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された栃木県の作況指数は103が見込まれ、作柄表示地帯別では、中部で102、北部及び南部ともに103が見込まれる。 (関東農政局 9月30日付) 関東甲信地方では、10月4日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (気象庁 9月29日発表)
埼玉	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数が平年並み、1種当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 登熟は、8月中下旬の日照不足や降雨の影響によりやや抑制されたこと、全もみ数がやや多いことによる相反作用により「<u>やや不良</u>」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は494kgで、前年産に比べ14kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東部で504kg(前年産比13kg増加)、西部で473kg(同13kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された埼玉県の作況指数は101が見込まれ、作柄表示地帯別では、東部及び西部ともに101が見込まれる。 (関東農政局 9月30日付) 9月20日から向こう1か月で、いもち病、紋枯病、セジロウカカの発生が「<u>やや多い</u>」と予想。(農林水産省 9月20日公表) 関東甲信地方では、10月4日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (気象庁 9月29日発表)
千葉	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数がやや少なく、1種当たりもみ数が多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 登熟は、出穂期以降、台風等の天候不順が緩いものの、比較的影響が少ないと見込まれることから「<u>平年並</u>」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は552kgで、前年産に比べ13kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、京葉で532kg(前年産比8kg増加)、九十九里で573kg(同19kg増加)、南房総で530kg(同10kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は103が見込まれ、作柄表示地帯別では、京葉で102、九十九里で104、南房総で103が見込まれる。 (関東農政局 9月30日付) 関東甲信地方では、10月4日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (気象庁 9月29日発表)
新潟	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稲の作柄は、田植期から出穂期までは概ね天候に恵まれ、全もみ数は「<u>やや多い</u>」となり、出穂期以降も好天に恵まれたことから、登熟は「<u>やや良</u>」と見込まれる。10a当たり予想収量は582kgで、前年産に比べて55kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 9月30日付) コシヒカリは、出穂期が平年より早く、登熟も早まっている。9月8日現在で、収穫適期は県平均で9月12日と平年より4日早い見込み。 (新潟県農林水産部 9月9日付) (南魚沼) コシヒカリは刈取り時期を迎えているが、降雨により収穫作業が遅れている。(9月29日付) 生育期の高温により出穂が早まり、刈取り適期も早まっている。9月4日現在、コシヒカリの収穫適期の予想は、南魚沼市では出穂期が8月1日で9月9日、出穂期が8月5日で9月14日、出穂期が8月10日で9月20日。湯沢町では出穂期が8月6日で9月17日、出穂期が8月10日で9月23日、出穂期が8月15日で9月30日。(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 9月7日付) (十日町) 十日町市(平田地)のコシヒカリの収穫適期の目安は、出穂期が7月30日で9月9日、出穂期が8月2日で9月12日、出穂期が8月5日で9月16日。こしいぶきの収穫適期の目安は、出穂期が7月24日で9月3日。 津南町米原(山間地・台地)のコシヒカリの収穫適期の目安は、出穂期が8月2日で9月14日、出穂期が8月6日で9月19日、出穂期が8月11日で9月26日。こしいぶきの収穫適期の目安は、出穂期が8月2日で9月13日。(十日町農業普及指導センター 9月27日付)
富山	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稲の作柄は、田植期から出穂期まで、総じて気温が高く日照が多かったことから、全もみ数は「<u>多い</u>」となった。登熟は出穂期以降も平年に比べ気温及び日照時間が概ね上回って経過したことから、「<u>平年並</u>」と見込まれる。 このことから、10a当たり予想収量は567kgで、前年産に比べて8kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 9月30日付) 9月20日から向こう1か月で、ごま葉枯病と紋枯病の発生が「<u>多い</u>」、セジロウカカの発生が「<u>やや多い</u>」と予想。(農林水産省 9月20日公表)

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
石川	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「<u>平年並</u>」となり、出穂以降も天候に恵まれたため、登熟は「<u>やや良</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は534kgで、前年産に比べて12kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 9月30日付)
福井	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における水稻の作柄は、田植期から出穂期まではおおむね天候に恵まれたことから、全もみ数は「<u>平年並</u>」となり、出穂以降も天候に恵まれたため、登熟は「<u>やや良</u>」と見込まれることから、10a当たり予想収量は535kgで、前年産に比べて17kgの増加が見込まれる。 (北陸農政局 9月30日付)
長野	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在の作柄は、全もみ数は、穂数がやや少なく、1穂当たりもみ数が平年並となったことから「<u>やや少ない</u>」となった。 登熟は、出穂期以降、概ね天候に恵まれ順調に推移していること、全もみ数がやや少ないことによる補償作用により「<u>やや良</u>」が見込まれる。 この結果、県の10a当たり予想収量は822kgで、前年産に比べ18kgの増加が見込まれる。また、作柄表示地帯別では、東信で632kg(前年産比9kg増加)、南信で626kg(同4kg増加)、中信で633kg(同23kg増加)、北信で688kg(同37kg増加)が見込まれる。 なお、農家等が使用しているふるい目幅(1.80mm)で選別された県の作況指数は100が見込まれ、作柄表示地帯別では、北信で103、中信で100、東信及び南信で99が見込まれる。 (関東農政局 9月30日付) 向こう1か月の病害虫の発生予報は、種いもちはやや少なく、紋枯病は平年並～やや多く、白葉枯病は平年並、ツマグロヨコバイは平年並、セジロウシと斑点米カメムシ類は平年並～やや多いと予想。(長野県病害虫防除所 9月15日付) 平坦地の早生種(あきたこまち等)は8月末から収穫が始まっており、「コシヒカリ」は9月上旬から下旬が収穫適期。9月3日現在、概ね平年より9日、昨年と比較して3日程度収穫適期が進んでいると予想。 (松本農業改良普及センター) 関東甲信地方では、10月4日頃からの約1週間は、気温が平年よりかなり高くなる見込み。(7日平均地域平年差+1.9℃以上) (気象庁 9月29日発表)
滋賀	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における作柄は、全もみ数は、穂数が平年並となり、1穂当たりもみ数がやや多くなったことから「<u>やや多い</u>」となった。 登熟は、出穂期以降、高温・多照で推移していることから「<u>やや良</u>」が見込まれる。 これらのことから9月15日現在の10a当たり予想収量は534kg(前年産に比べ16kg増加)が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は104となる見込み。 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、湖南は543kg(前年産に比べ17kg増加)、湖北は515kg(同13kg増加)が見込まれる。 被害は、山間部を中心に獣害等の発生がみられる。 (近畿農政局 9月30日付)
兵庫	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における作柄は、穂数は、6月中・下旬の日照時間が平年を下回って経過したことから分けつが抑制され「<u>やや少ない</u>」となった。 1穂当たりもみ数は、7月中旬の日照時間が平年を下回ったものの、7月下旬以降、多照で経過したため「<u>平年並</u>」となった。 全もみ数は、穂数がやや少なくなり、1穂当たりもみ数が平年並みとなったことから「<u>やや少ない</u>」となった。 登熟は、8月が高温・多照で経過したことや、全もみ数がやや少なくなったことによる補償作用が見込まれることから「<u>やや良</u>」が見込まれる。 これらのことから9月15日現在の10a当たり予想収量は499kg(前年産に比べ2kg減少)が見込まれる。また、農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となる見込み。 作柄表示地帯別の10a当たり予想収量は、県南は500kg(前年産に比べ2kg減少)、県北は497kg(同8kg減少)、淡路は498kg(同5kg増加)が見込まれる。 被害は、山間部を中心に獣害等の発生がみられる。 (近畿農政局 9月30日付)
岡山	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における作柄は、穂数は、中北部では梅雨期の日照不足の影響から分けつが緩慢となったため「<u>少ない</u>」となり、南部では「<u>平年並</u>」と見込まれるため、県全体では「<u>やや少ない</u>」と見込まれる。 1穂当たりもみ数は、中北部では幼穂形成期に天候に恵まれたこと及び穂数が少ないことによる補償作用から「<u>やや多い</u>」となり、南部でも幼穂形成期の天候に恵まれたことから「<u>やや多い</u>」と見込まれるため、県全体では「<u>やや多い</u>」と見込まれる。 これらのことから、全もみ数は、中北部では「<u>少ない</u>」となり、南部及び県全体では「<u>平年並</u>」と見込まれる。 登熟は、梅雨明け以降好天が続き、気温日較差が大きい状況で推移しているため、中北部では全もみ数が少ないことによる補償作用もあり「<u>良</u>」と見込まれ、南部では「<u>やや良</u>」と見込まれる。この結果、県全体では「<u>やや良</u>」と見込まれる。 以上のことから、岡山県の10a当たり予想収量は543kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ38kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が555kg(前年産に比べ43kg増加)、中北部が519kg(同24kg増加)と見込まれる。 また、農家等が使用しているふるい目幅(中国地域は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は103(やや良)で、うち南部が104(やや良)、中北部が101(平年並)と見込まれる。 (中国四国農政局 9月30日付) 9月20日から向こう1か月で、ごま葉枯病と紋枯病の発生が「<u>やや多い</u>」と予想。(農林水産省 9月20日公表)
広島	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における作柄は、穂数は、6月が多雨・日照不足で推移したため、北部では「<u>少ない</u>」、南部では「<u>やや少ない</u>」となった。この結果、県全体の穂数は「<u>少ない</u>」となった。南部が「<u>やや少ない</u>」のは、南部で品種構成比の高い中生品種の分けつ期は6月中旬から7月中旬で、6月が分けつ期にほぼ相当する早生品種と比べて、分けつ期における日照時間が長かったため。 1穂当たりもみ数は、7月上旬から8月上旬が高温・多照で推移したことに加え、穂数が少ないことによる補償作用が生じたことから、南部は「<u>多い</u>」、北部は「<u>やや多い</u>」となった。この結果、県全体の1穂当たりもみ数は「<u>やや多い</u>」となった。南部が「<u>多い</u>」のは、中生品種の幼穂形成期に当たる日照等の気象条件が、早生品種の幼穂形成期に比べて恵まれたことによる。 これらのことから、全もみ数は、南部では、穂数が「<u>やや少ない</u>」、1穂当たりもみ数が「<u>多い</u>」ことから、「<u>やや多い</u>」となった。一方、北部では、穂数が「<u>少ない</u>」、1穂当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」ことから、「<u>やや少ない</u>」となった。この結果、県全体の全もみ数は「<u>平年並</u>」となった。 登熟は、早生品種の登熟期に当たる8月に晴れる日が多く、日照時間及び気温日較差が平年を上回ったため、早生品種の構成比の高い北部の登熟は「<u>良</u>」が見込まれる。一方、中生品種の登熟期に当たる8月下旬以降は、相次ぐ台風の影響、前線の停滞の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間及び気温日較差が平年を下回っているため、中生品種の構成比の高い南部の登熟は「<u>やや不良</u>」が見込まれる。この結果、県全体の登熟は、「<u>やや良</u>」が見込まれる。 以上のことから、県の10a当たり予想収量は525kg(前年産に比べ18kg増加)と見込まれる。作柄表示地帯別にみると、南部が524kg(同16kg増加)、北部が526kg(同19kg増加)と見込まれる。 また、農家等が使用しているふるい目幅(広島県は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101(平年並)で、南部が100(平年並)、北部が102(やや良)と見込まれる。 (中国四国農政局 9月30日付)
山口	<ul style="list-style-type: none"> 9月15日現在における作柄は、穂数は、6月が雷雨天により降水量が多く、日照時間は平年に比べ少なかったことから分けつが抑制され、東部は「<u>少ない</u>」、西部及び長北は「<u>やや少ない</u>」と見込まれ、県全体では「<u>やや少ない</u>」と見込まれる。1穂当たりもみ数は、穂数がやや少なかったことによる補償作用や、中生種・晩生種の幼穂形成期の日照時間が平年に比べ多かったことから、東部で「<u>多い</u>」、西部で「<u>平年並</u>」と見込まれる。一方、長北は、作付面積割合が高い早生種の幼穂形成期が天候不順であったことから「<u>やや少ない</u>」と見込まれ、県全体では「<u>やや多い</u>」と見込まれる。 以上のことから、全もみ数は、東部及び西部で「<u>平年並</u>」、長北で「<u>少ない</u>」と見込まれ、県全体では「<u>平年並</u>」と見込まれる。登熟は、7月下旬から9月中旬が天候に恵まれ日照時間が平年に比べ多く推移したことから、東部及び西部で「<u>やや良</u>」、長北では好天に加え、全もみ数が少なかったことによる補償作用により「<u>良</u>」が見込まれる。この結果、県全体では「<u>やや良</u>」が見込まれる。 以上のことから、山口県の10a当たり予想収量は515kgで、前年産に比べ24kg増加が見込まれます。作柄表示地帯別にみると、東部が494kg(前年産に比べ21kg増加)、西部が522kg(同29kg増加)、長北が508kg(同16kg増加)と見込まれる。 また、農家等が使用しているふるい目幅(中国地域は1.80mm)以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は102(やや良)で、作柄表示地帯別では、東部が102(やや良)、西部が102(やや良)、長北101(平年並)と見込まれる。 (中国四国農政局 9月30日付) 9月20日から向こう1か月で、いもち病の発生が「<u>やや多い</u>」と予想。(農林水産省 9月20日公表)

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
愛 媛	<p>・9月15日現在における作柄は、穂数は、地帯別にばらつきがあったが、莖数と同様に7、8月の高温多照の影響を強く受けた比較的田植期の遅い品種（ヒノヒカリ、にこまる等）の多い東予が「やや多く」、6月の日照不足の影響を受けた比較的田植期の早い品種（コシヒカリ、あきたこまち等）の多い南予は「やや少ない」ものの、中予は「平年並」となったことから、県全体では「平年並み」となった。</p> <p>また、1種当たりもみ数は幼穂形成期に天候に恵まれたため、東予が「平年並み」、南予が「多い」、中予は「やや多い」となったことから、県全体では「やや多い」となった。</p> <p>この結果、全もみ数は各地帯別及び県全体ともに「やや多い」となった。</p> <p>登熟は、出穂期までは多照で台風等の気象被害が少ない好条件もあったが、9月以降は曇照で気温日較差も小さいことから各地帯別及び県全体ともに「平年並」が見込まれる。</p> <p>以上のことから、県の10a当たり予想収量は516kgとなり、作柄の悪かった前年産に比べ28kgの増加が見込まれる。作柄表示地帯別にみると、東予が512kg（前年産に比べ31kg増加）、中予が549kg（同21kg増加）、南予は493kg（同32kg増加）が見込まれる。</p> <p>また、農家等が使用しているふるい目幅（1.75mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は104（やや良）で、うち東予が104（やや良）、中予が103（やや良）、南予は104（やや良）が見込まれる。</p> <p>（中国四国農政局 9月30日付）</p> <p>・9月20日から向こう1か月で、いもち病と斑点米カメムシ類の発生が「やや多い」と予想。（農林水産省 9月20日公表）</p>
高 知	<p><早期栽培の9月15日現在の作柄></p> <p>穂数は、生育初期の高温により、生育期間が早く平年に比べ分けつ期が短かったことから、「やや少ない」となった。一方、1種当たりもみ数は、穂数が少ないことから補償作用が働き「やや多い」となり、総じて全もみ数は「やや少ない」となった。</p> <p>登熟は、7月以降高温・多照で推移し、粒の充実が順調であったことから、「やや良」となった。</p> <p>以上のことから、早期栽培の10a当たり予想収量は481kg、作況指数は101（平年並）となった。</p> <p><普通栽培の9月15日現在の作柄></p> <p>穂数は、6月の日照不足の影響で分けつが抑制され、莖数がやや少ないことから、「やや少ない」となった。一方、1種当たりもみ数は、7月下旬以降のおおむね高温・多照で推移したことから、「やや多い」となり、総じて全もみ数は「やや少ない」となった。</p> <p>登熟は、出穂期以降高温・多照で推移していることから、「やや良」と見込まれる。</p> <p>以上のことから、普通栽培の10a当たり予想収量は440kg、作況指数は102（やや良）と見込まれる。</p> <p><県及び作柄表示地帯別></p> <p>県の10a当たり予想収量は463kg、作況指数は101（平年並）と見込まれる。作柄表示地帯別には、中東部が479kgで101（平年並）、西部が438kgで102（やや良）と見込まれる。</p> <p>（中国四国農政局 9月30日付）</p> <p>・「コシヒカリ」の玄米の形質は、地域により差はあるものの、全体的に光沢は良好である。中山間部のは、粒ぞろいがやや不揃いであり、粒形もやや細く、小ふりである。63.4%が2等で、落等理由としては心白・腹白の発現や充実不足である。出回り初期は、青未熟粒の混入がやや多かったが、8月下旬以降は、青未熟粒の混入は少なく、その他未熟粒の混入がやや多い。その他未熟粒の混入の程度は地域による差がある。胴割粒及び被覆粒の混入は比較的少ない。胴割粒については、地域によりパラツキがある。着色粒は平均0.1%の混入で全体的に散見される程度である。</p> <p>（精米工 9月29日付）</p>
福 岡	<p><福岡地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「やや多い」となったが、「やや少ない」となった。</p> <p>登熟は、早生種の萎つくし等で出穂以降、高温多照に経過していることから、「やや良」が見込まれる。</p> <p>このことから、10a当たり予想収量は平年並みの483kg（作況指数101）が見込まれる。</p> <p><北東部地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「やや多い」となったことから、「やや多い」となった。</p> <p>登熟は、早生種の萎つくし等で出穂以降、高温多照に経過していることから、「やや良」が見込まれる。</p> <p>このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る501kg（同104）が見込まれる。</p> <p><筑後地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、1種当たりもみ数が「平年並」となったことから、「やや多い」となった。</p> <p>登熟は、元気づくしやヒノヒカリの出穂以降、曇雨天日が多く、やや日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。</p> <p>このことから、10a当たり予想収量は平年並みの516kg（同100）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の10a当たり予想収量は平年を上回る505kg（同102）が見込まれる。</p> <p><被害状況></p> <p>気象被害は、8月下旬の強風によるもみずれや、もみ枯れがみられる。また、一部の地域では9月中旬の秋雨前線による降雨により倒伏がみられる。</p> <p>病害は、いもち病や紋枯病の発生がみられるものの平年より少なくなっている。虫害等は、カメムシやウツカノの発生は平年並となっている。</p> <p>総的に被害は平年並の発生となっている。</p> <p>（九州農政局 9月30日付）</p> <p>・農林業総合試験場における生育概況は、出穂期はいずれの品種も平年より1~3日早く、穂数は萎つくしで平年より7%多く、元気づくしで平年並である。ヒノヒカリは農産部で平年より6%多く、筑後分場で4%少ない。今後の気温が平年並で経過すると、成熟期は平年より1~3日早いと予想される。</p> <p>（福岡県農林業総合試験場 9月1日付）</p>
熊 本	<p><県北地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数が「やや多い」となり、その相反作用で1種当たりもみ数が「やや少ない」となったが、「やや多い」となった。登熟は、病虫害の発生は平年より少なくなっているものの、出穂以降、やや日照不足で推移していることから「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る539kg（作況指数102）が見込まれる。</p> <p><阿蘇地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数及び1種当たりもみ数が「平年並」となったことから、「平年並」となった。登熟は、5月早植えのコシヒカリについては、出穂以降高温多照に経過しており、その他の品種については、出穂以降、やや日照不足に推移しているものの、病虫害の発生は平年より少なくなっていることから、「やや良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る522kg（同103）が見込まれる。</p> <p><県南地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数が「やや少ない」となり、その補償作用で1種当たりもみ数が「多い」となったことから、「やや多い」となった。登熟は、1種当たりもみ数が多いことによる相反作用と、出穂期以降、やや日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る520kg（同103）が見込まれる。</p> <p><天草地帯の9月15日現在の作柄></p> <p>全もみ数は、穂数は「平年並」となり、1種当たりもみ数は「やや少ない」となったことから、「やや少ない」となった。登熟は、早期栽培では登熟期後半が好天に恵まれたものの、普通栽培では出穂期以降やや日照不足で推移していることから、「やや不良」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を下回る424kg（同97）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、熊本県の10a当たり予想収量は平年を上回る525kg（同102）が見込まれる。</p> <p><被害状況></p> <p>気象被害は、一部地域で台風の接近及び秋雨前線に伴う風雨による倒伏がみられる。病害については、いもち病及びもみ枯細菌病の発生がみられるが平年並みとなっている。虫害等では、カメムシが平年並の発生となっているが、トビイロウンカについては平年より少ない発生となっている。総的に被害は平年に比べやや少なくなっている。</p> <p>（九州農政局 9月30日付）</p>

収量構成要素、作柄及び品質等の概況	
宮 崎	<p><早期栽培水稲の9月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 全もみ数は、1種当たりもみ数は「<u>平年並</u>」となったが、穂数が「<u>少ない</u>」となったことから、平年に比べ「<u>少ない</u>」となった。登熟は、幼穂形成期から出穂期にあたる5月下旬から6月下旬にかけては日照時間が平年を下回ったが、7月上旬以降の日照時間が平年並ないしやや上回って経過したことや、全もみ数が少ないことによる補償作用から、「<u>やや良</u>」となった。このことから、10a当たり収量は平年を下回る461kg（作況指数97）となった。</p> <p>・被害状況 気象被害は、4月から5月の日照不足等の影響により、分けつ抑制などがみられた。病害では、葉いもちや穂首いもちの発生が平年に比べやや多くみられた。虫害等では、スクミリンゴガイの食害が平年に比べやや多くみられた。総体的に被害は平年に比べやや多い発生となっている。</p> <p><普通栽培水稲の9月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 <u>(広域沿海地帯)</u> 全もみ数は、穂数及び1種当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」となったことから「<u>多い</u>」となった。登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照であったものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、全もみ数が多いことから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る493kg（同104）が見込まれる。</p> <p><u>(広域露島地帯)</u> 全もみ数は、穂数は「<u>やや少ない</u>」となったが、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから「<u>やや多い</u>」となった。登熟は、9月以降日照時間は平年を下回って推移しているものの、病虫害の発生が平年に比べやや少ないことから、「<u>平年並</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る546kg（同102）が見込まれる。</p> <p><u>(西北山間地帯)</u> 全もみ数は、穂数は「<u>少ない</u>」となったが、その補償作用で1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから「<u>やや多い</u>」となった。登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照であったものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、1種当たりもみ数が多いことから、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る500kg（同102）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は平年を上回る525kg（同103）が見込まれる。</p> <p>・被害状況 気象被害は、一部の地域で、6月から7月にかけての日照不足の影響で分けつ抑制がみられた。病害については、いもち病の発生がみられるが平年並からやや少なくなっている。虫害等では、ウンカ類の発生がみられるが、平年並からやや少なくなっている。総体的に被害は平年に比べやや少ない発生となっている。</p> <p><u>(九州農政局 9月30日付)</u></p> <p>・10月の穂いもちの発生量は、平年と比較してやや多いと予想。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 9月28日公表）</p> <p>・9月20日から向こう1か月で、いもち病、セジロウンカ、トビロウンカの発生が「<u>やや多い</u>」と予想。（農林水産省 9月20日公表）</p> <p>・「<u>コシヒカリ</u>」の玄米の形質は、光沢・粒形は平年並であるが、早場米特有の早刈りと思われるものもあり、収穫日・生産者によるバラツキが感じられる。また、出穂期以降も天候に恵まれたため、全体的に白未熟粒及び青未熟粒の混入は少ないが、水不足気味だったためか、死米の混入は青・白ともに平年よりやや多い。その他未熟粒の混入は、全体的には平年並だが、地域による差が見られる。被害率・着色粒の混入は少ない。胴割粒の混入はやや多いものがあり、これも死米と同様の影響によるものと思われる。（精米工 9月9日付）</p>
鹿 児 島	<p><早期栽培水稲の9月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 全もみ数は、田植期の違いにより地帯間で差がみられるものの、県平均では穂数及び1種当たりもみ数が「<u>平年並</u>」となったことから、「<u>平年並</u>」となった。登熟は、登熟前半までの日照不足及び風雨や登熟後半の高温、また、一部地帯でのいもち病等の拡大も影響したため、「<u>やや不良</u>」となった。このことから、鹿児島県の早期栽培水稲の10a当たり収量は平年を下回る429kg（作況指数96）となった。</p> <p>・被害状況 気象被害では、生育期の長雨・日照不足の影響で茎葉がやや軟弱であったことから一部で風雨による倒伏がみられたほか、生育期全般の気温が高く経過し生育期間が短縮されたことや、出穂期の日照不足及び風雨の影響に加え、登熟後半の高温の影響で登熟不良がみられた。病虫害では、出穂期前後に降雨が続き、適期防除のできなかった一部地帯で、いもち病、紋枯病及びカメムシの発生がみられた。総体的に被害は平年に比べやや多い発生となっている。</p> <p><普通栽培水稲の9月15日現在の作柄概況></p> <p>・作柄概況 <u>(薩摩半島地帯)</u> 全もみ数は、穂数が「<u>やや多い</u>」となり、1種当たりもみ数も「<u>多い</u>」となったことから、「<u>多い</u>」となった。登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照であったものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、全もみ数が多いことによる相反作用から、「<u>やや不良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る497kg（同104）が見込まれます。</p> <p><u>(出水薩摩地帯)</u> 全もみ数は、穂数が「<u>やや多い</u>」となり、1種当たりもみ数が「<u>平年並</u>」となったことから、「<u>やや多い</u>」となった。登熟は、9月以降日照時間は平年を下回って推移しているものの、病虫害の発生が平年に比べやや少ないことから「<u>平年並</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る514kg（同103）が見込まれる。</p> <p><u>(伊佐始良地帯)</u> 全もみ数は、穂数が「<u>平年並</u>」となり、1種当たりもみ数が「<u>多い</u>」となったことから、「<u>多い</u>」となった。登熟は、出穂期にあたる8月下旬は高温多照であったものの、9月以降は日照時間が平年を下回って推移していることや、全もみ数が多いことによる相反作用から「<u>やや不良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る519kg（同103）が見込まれる。</p> <p><u>(大隅半島地帯)</u> 全もみ数は、穂数が「<u>少ない</u>」となり、1種当たりもみ数が「<u>やや多い</u>」となったことから、「<u>やや少ない</u>」となった。登熟は、9月以降日照時間は平年を下回って推移しているものの、病虫害の発生が平年に比べやや少ないことや、全もみ数がやや少ないことによる補償作用から、「<u>やや良</u>」が見込まれる。このことから、10a当たり予想収量は平年を上回る489kg（同102）が見込まれる。</p> <p>以上の結果、県の普通栽培水稲の10a当たり予想収量は平年を上回る509kg（同103）が見込まれる。</p> <p><被害状況></p> <p>気象被害では、田植の早い地帯で分けつ期の日照不足の影響で、分けつ不足がみられるほか、出穂期の8月中下旬が高温で経過した影響による高温障害や台風接近及び秋雨前線に伴う風雨による倒伏等がみられ、今後、登熟への影響が懸念される。病害については、葉いもちが枝硬いもちや穂首いもちへ進展しているほ場がみられる。虫害等では、トビロウンカの発生がみられるほか、スクミリンゴガイの食害がやや多くなっている。総体的に被害は平年に比べやや少ない発生となっている。</p> <p><u>(九州農政局 9月30日付)</u></p> <p>・9月20日から向こう1か月で、トビロウンカの発生が「<u>多い</u>」、斑点カメムシ類の発生が「<u>やや多い</u>」と予想。（農林水産省 9月20日公表）</p>

注1：自治体等公表資料については地方自治体及び出先機関等が公表している資料から抜粋、日付は公表日。

注2：農政局が公表している資料の「前年度比」は、確定値との比較となっている。

注3：（精米工）とあるものは、一般社団法人日本精米工業会が提供している「米質概況情報」から抜粋。但し「米質概況情報」は一般社団法人日本精米工業会が正会員精米工場から得たサンプル（玄米）を測定したものであり、母集団として産地の評価を決めるものではない。

注4：更新箇所については下線で表した。

参考資料

平成28年産水稲の9月15日現在における作柄概況(農林水産省、農林水産省農政局)、
平成27年産水稲の9月15日現在における作柄概況(農林水産省)、
平成28年産米の農産物検査結果(速報値/平成28年8月31日現在)(農林水産省)、
平成27年産米の農産物検査結果(速報値/平成27年8月31日現在)(農林水産省)、
平成28年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
平成27年産米の都道府県別の生産数量目標等(農林水産省)、
「平成28年度病害虫発生予報第7号」の発表について(農林水産省 9月20日)、
玄米品質概況(平成28年産)(9/9、9/29)(一般社団法人日本精米工業会)

農作物の生育状況 9月15日現在(北海道 9月20日)、農作物生育状況 9月15日現在(北海道空知総合振興局 9月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道石狩振興局 9月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道後志総合振興局 9月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道胆振総合振興局 9月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道日高振興局 9月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道渡島総合振興局 9月20日)、農作物の生育状況 9月15日現在(北海道檜山振興局 9月20日)、
農作物の生育状況 9月15日現在(北海道上川総合振興局 9月20日)、農作物生育状況調査の概要 9月15日現在(北海道留萌振興局 9月20日)、
農作物の生育と農作業の進捗状況 9月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 9月20日)、
稲刈進捗状況(9月20日現在)(青森県 9月21日)、
H28水稲作況(登熟9月9日現在)(青森県産業技術センター農林総合研究所 9月13日)、
農作物技術情報第7号水稲(岩手県 9月29日)、
平成28年産水稲の刈取状況について(9月26日現在)(宮城県農林水産部 9月27日)、
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」<http://www.e-komachi.jp/> 9月30日)、
米づくり技術情報No.12(県産米ブランド推進課 9月23日)、米づくり技術情報No.11(県産米ブランド推進課 9月16日)、
つや姫だより第7号(庄内総合支庁 農業技術普及課 9月16日)、つや姫だより第8号(庄内総合支庁 農業技術普及課 9月27日)、
稲作だより緊急号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 9月27日)、おいしい米づくり情報第10号適期刈取編(村山総合支庁 農業技術普及課 9月16日)、
主要な農作物の生育情報平成28年度第6号(福島県 9月9日)、
水稲の生育状況と今後の管理対策(第10号)(新潟県農林水産部 9月9日)、
臨時稲作情報(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 9月29日)、
稲作情報No.9(南魚沼地域農業振興協議会・南魚沼農業普及指導センター 9月7日)、
収穫適期のめやす(十日町版)(津南町版)(十日町農業普及指導センター 9月27日)、
平成28年度作物技術普及情報15号(松本農業改良普及センター)、病害虫発生予報第6号(長野県病害虫防除所 9月15日)、
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県 9月27日)、
福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 9月1日)、
平成28年度病害虫発生予報第6号(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 9月28日)、

高温に関する異常天候早期警戒情報(気象庁 9月29日)